

コラム

# みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.37

## 【聞き書きで他者と繋がり、心がつながってゆく】

花粉症の季節が終わりましたから窓を全開にして新鮮な空気をいれ、洗濯物を外にほしてお日様の香りを感じる。5月の晴天や薫風を感じていい気分になっていたら、いつしか6月にはいり、しかも関東地方は早くも6日に梅雨入り宣言がなされました。梅雨の後に控えているのは猛暑の夏、台風の季節、冬も年々寒さ厳しくなります……。日本の四季の中で、5月と10月しか穏やかに過ごせなくなっているような気がします。

“みやちゃん”こと宮原富士子さんが理事長を務めるHAPのオンラインイベントは、医療・介護従事者を対象として（一部、一般人も参加可能）様々な趣向を凝らした講座がそろっています。関東地方が梅雨入りした週の6月8日夜に開催されたのは、「対人支援 ー聞き書き塾ー」で、講師は金沢を拠点に聞き書き活動を展開する天野良平さんでした。天野先生には、“みやちゃん”が主宰する浅草のがん哲学外来のオンライン講座（2021年1月度）でもご登場いただき、「聞き書き」のいろはを教えてくださいました。

<http://www.asakusakanwa.net/g-cafe/20210118.html>

今回の講座は4回シリーズの第1回目で、聞き取りの基礎を学ぶ内容。2回目（2022年9月29日）、3回目（2022年12月9日）、4回目（2023年3月23日）構成で、講義と実践→聞き取り作品発表会といった内容となっています。

天野先生がここでとりあげるのは、「7ミニッツ聞き書き」。文字どおり、7分間で語り手の話をきき、文字にする聞き書きの手法です。「聞き書き」といわれても、どのように始めたらいいか不安という方には、入門編ですので入りやすいのではないのでしょうか。

このコラム（のどこか）で紹介しましたが、私はライター業のほかに「自分史活用アドバイザー」という肩書をもって活動しています。著名な方が後世に残すものと思われがちな自分史をとっつきやすいようにご紹介し、取材（インタビュー）・執筆・編集を行い、これまで数回自分史講座や教師で講師をしたこともあります。自分史を書いたり教えたりすることを仕事にする方々は、執筆するツールとして「聞き書き」を採用している方も多くいらっしゃいます。

私の場合、聞き書きのイロハを受講しましたが、まだ「7ミニッツ聞き書き」を実践しておりませんため、この4回シリーズを大変楽しみにしている次第です。

自分史や聞き書きは、私のようなライター業に携わっている人が書くものでは決してなく、書けないものでもありません。誰でも書いていいもの、書けるもの、書くべきものです。

人は誰もが語るべきものをもっています。語らないと他者にも、そして自分にもわからないものです。これまで多くの方々の話をきき、仕事でインタビュー記事を書いたり、自分史原稿を書いたりしてきましたが、私自身は「聞いてもらった」ことは一度もありません。実をいうと、語りたことがいっぱいあって「誰か私を聞き書きしてくれないかな～」と思ったりしています。

先日、老人施設入居中の故郷の母をお世話してくださっているケアマネージャーから本年度の「サービス計画書」が送られてきました。そこには、次のように書かれていました。

○母の要望「お喋りが好きなのでおしゃべりして楽しく過ごしたい」

↓

○施設のサービス内容

- 1) 他者との交流の機会を作り、お話しを楽しんでいただく。
- 2) ～省略～
- 3) 遠方の家族とのオンライン面会等を援助する。

3) については、私たち家族よりも母の長年の友人とのビデオ面談を毎月1回ペースで楽しんでおり、認知症を患っているとは思えないほどスムーズな会話だと聞き安心しているところです。母をサポートしてくださるスタッフの方々は、時々10分間程、母と対話をして会話の内容を手紙やラインなどで知らせてくださいます。そこには、私たち家族が一緒に暮らしていた頃には聞いたことがない事柄が書かれていて、驚くこともたびたびです。これは立派な「聞き書き」だと思います。

自分史については、数年前に写真を中心にまとめた簡単なものを作成したことがありますが、この講座をすべて聴講したら、母の聞き取りを実施しちょっとした冊子にしてプレゼントするつもりです。方言（長崎弁）を話し、波乱万丈な人生を歩んだ母の物語は、聞き書きというスタイルの方が（家族にとっては）じっくりくと確信しております。

そして、残りの人生は「聞き書き活動家」としてもちびちび活動していこうと考えております。

天野先生による4回シリーズの聞き書き講座は、2回目から参加でも十分理解できる企画ですので、ご関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

★「対人支援 一聞き書き塾一」

[http://www.hap-fw.org/sponsoring/pdf/2022/taijinshien/20220608\\_taijinshien.pdf](http://www.hap-fw.org/sponsoring/pdf/2022/taijinshien/20220608_taijinshien.pdf)